



節水

水の流しっぱなしはやめましょう。

公署が近く健康で快適な暮らしを市民・事業者の多くに提供できる環境をつくることを目的としています。

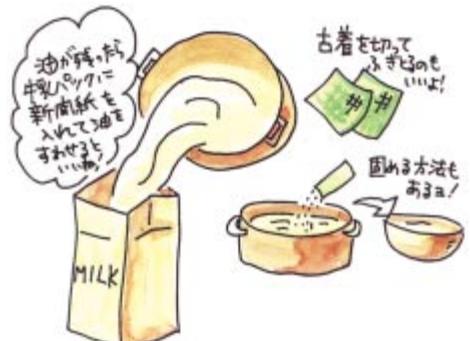
市民が身近な自然に親しんで、策定にあたっては、市民説明会・事業者説明会を行いました。市民編は、生活を家庭、買い物、学校・職場、通勤・通学、レクリエーションや休日、地域活動の五つの場面に分け、どんな行動をとれば身近な環境を守り、ひいては、地球規模の問題解決にまで寄与できるかを、

まず、やってみようエコチェック(市民編)

番号	環境を考えた行動	チェック
1	料理の時、なべは平らなものを使い、なべ底の水溜をふく省エネ(燃料をムダにしない)	
2	お湯を沸かす時などは、強火より中火にする省エネ(燃料をムダにしない)	
3	冷蔵庫の開閉は少なく、詰めすぎに注意する節電	
4	クーラーの設定温度を28度ぐらいにする節電	
5	部屋の電気をこまめに消す節電	
6	電化製品のコンセントはこまめに抜く節電	
7	テレビやラジオのつけっぱなしはしない、音は適度にする節電・地域へのエチケット	
8	生ごみの量を減らし、出たものは、水を切って捨てる川や海を汚さない・ごみを減量する	
9	米のとぎ汁はそのまま捨てずに再利用する川や海を汚さない・自然環境保全	
10	食用油は使いきるか、流さずに処理する川や海を汚さない・自然環境保全	
11	ハミガキの時はコップを使い、水を流しっぱなしにしない節水	
12	シャワーを流しっぱなしにしない節水・省エネ	
13	詰め替え製品を活用しましょうごみの減量(省資源)	
14	必要なもの・必要な量だけを買うごみの減量(省資源)	
15	買い物の時、マイバッグを持参し、レジ袋を断わるごみの減量(省資源)	
16	買い物の時、過剰包装を断わるごみの減量(省資源)	
17	エコマークなどに注意し、環境にやさしい商品を選ぶ環境への負荷を減らす(省資源・省エネなど)	
18	ごみや再利用・リサイクル資源を正しく分別するごみの減量(省資源)	
19	地元で取れた農作物を選ぶ省エネ	
20	エコドライブを実行する省エネ	
21	再生紙や裏紙を活用する省資源・リサイクル	

川や海をきれいに

油は排水口に流すと河川を汚します
使いきりましょう
固めたり、新聞紙に吸わせて処理しましょう



この計画は、行動指針・施策を市民・事業者・行政の各主体が協働して行うことで環境に対する負荷を減らし、深刻な状況にある地球環境問題へ市が積極的に取り組むことを市民が身近な自然に親しんで、策定にあたっては、市民説明会・事業者説明会を行いました。市民編は、生活を家庭、買い物、学校・職場、通勤・通学、レクリエーションや休日、地域活動の五つの場面に分け、どんな行動をとれば身近な環境を守り、ひいては、地球規模の問題解決にまで寄与できるかを、

市民・事業者・行政の行動を具体化

環境保全行動計画を策定

私が変える美らまち・なは

いま、環境問題は生活に関わる身近な問題から、オゾン層の破壊などの地球規模の問題まで多様化しています。このほど、那覇市は私たちが日常生活の中でどのような行動をすれば環境保全に役立つかを示した「環境保全行動計画」(市民編、事業者編、行政編の三編)を策定しました。私たち一人ひとりが行動を変えることによって、『美らまち・なは』をつくっていきましょう。

市では平成12年3月、「環境基本計画」を策定しました。その中で表現されている望ましい環境像「人・自然・地球にやさしい環境共生都市なは」の実現に向け、市民や事業者の具体的な行動指針と行政の施策の展開を示す「環境保全行動計画」がこのほど完成しました。

を具体的に示しています。また、実践例やミニ知識などをわかりやすく説明するためにイラストを交えたり、巻末には、私たちの暮らしの中で、少し意識を変えれば実行できる行動を選び出した「エコチェック表」も掲載されています。

使わない部屋の照明はこまめに消しましょう



節電

- クーラー
- ・設定温度を28度ぐらいにしましょう
 - ・ブラインドやカーテンを活用しましょう
 - ・外出のときは早めに止めましょう

自治体経営と機能するバランスシート講演会



バランスシートをどう反映させ活用するかを講演する中地宏さん。

財政の健全化に向けて

本市では、財政の健全化を高めるため、バランスシートの導入を検討中です。バランスシートの導入を前に、去った4月19日、パレット市民劇場で講演会を開催しました。

バランスシートとは、企業会計でいう貸借対照表で、収支の財政状況がわかりやすく、最近、導入する自治体が全国的に増えています。本市も導入に先立ち、先進地の事例や活用方法についての講演会を行いました。講師は、これまで東京都、武蔵野市等、わが国の先行事例に携わってきた日本公認会計士協会会長の中地宏さん、公認会計士の米田正巳さん、鶴川正樹さん。中地さんは、「自治体経営と機能するバランスシート」の講演で、自治体は、責任を引き継ぎ、難しい問題を先送り

にしがちである。責任会計を末端まで浸透させるために、各課各部ごとにヤジロベエ軍団を構成し運営することが、機能するバランスシートを作ることにつながる」と説明。さらに、「市の改革は、職員意識改革から始まる」と話しました。米田さんと鶴川さんは東京都や武蔵野市の事例を挙げて説明しました。



中地さんの話を熱心に聞き入る市職員

また、自治会、PTA、事業所などが行動計画の説明を希望された場合、職員が説明会を開いたり、小、中学校と連携して、授業の中で取り上げてもらうことも考えています。



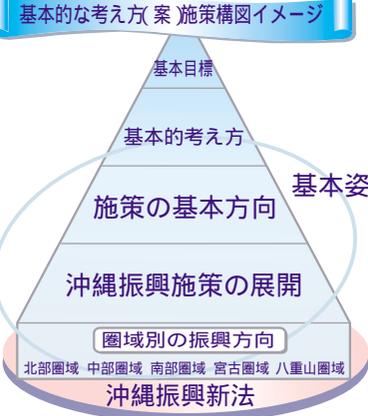
行動計画の普及版配布や説明会の要請も受け付けています。お問い合わせ

環境保全課(公証人役場2階)
TEL 8629199
FAX 8629649

また、みなさんの家庭や地域、事業所などで、環境保全のためにいろいろ工夫していることなどをお知らせいただきたいと思っています。

平和で安らぎと活力のある沖縄県をつくる

第3次沖縄振興開発計画に変わる「新たな沖縄振興に向けた基本的な考え方(案)」が県から示されました。この基本的な考え方に對し、多くの市民からの意見と提言を求め、21世紀初めの沖縄の進路を県民全体で考えていきたいとの趣旨で、去った4月27日、自治会館で



2001県民フォーラムが開催されました。フォーラムは主催者挨拶、県の基調報告、そしてパネルディスカッション、と続き、最後にフロアから意見を受けていく方法で進められました。翁長市長は、「今回、査定される沖縄振興計画は、今後10年、沖縄県

パネリストたちは、産業経済分野、観光分野、環境分野、人材教育分野、福祉分野にとそれぞれ専門的分野を生かして、民間の立場から今回の基本案に對し問題を提起。また、フロアからは、失業率の問題、食糧問題、鳥々の自立問題、そしてITでの国際競争が可能かなど、多くの質問がありました。